

事例5 社会的事象の中に SDGs との関連を見いだす事例

- 学年 第6 学年
- 主な領域 内容(1)ア(イ)(ウ)・イ(イ) 我が国の政治の働き
- 事例のポイント

- ① 2 サイクルでの学習過程を通じて、学ぶ必要性を感じることができるようにする。
- ② 社会的事象の意味と SDGs を関連させ、学習に対する価値を高め学習意欲を引き出す。
- ③ ICT 端末のデータ共有機能を活用し、学びの充実化・効率化を図る。

- 1 小単元名 「わたしたちの生活を豊かにする政治」(8 時間)
- 2 小単元について(略)
- 3 小単元の目標と評価規準

(1) 目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、図表や文などにまとめ、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査や各種の資料で調べ、表や文などにまとめ、国や市の政治の取組を理解している。 ② 国や市の政治の働きについて、調べたことを図表や文などにまとめ、国や市の政治は、国民主権の考え方の下、市民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	① 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、市の政治の取組について考え表現している。 ② 国や市の政治の取組と市民生活を関連付けて国や市の政治の働きを考え、表現している。	① 国や市の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し解決しようとしている。 ② 国や市の将来を担う市民としての自覚をもち、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

編 P49 指導計画作成の留意事項(7)

4 小単元の指導計画・評価計画(8 時間)

過程	○主な学習活動・学習内容	【評価の観点】内容(方法) ※網掛けは評価した結果を記録に残す場面	資料等
つかむ	① 子ども家庭総合センター「あいぱれっと」について、利用者数と年齢層、行われている活動、開設にかかった費用などから、「あいぱれっと」がつけられた理由について問いを見いだし、学習問題Ⅰを立てる。 ・「あいぱれっと」利用者数と年齢層 ・「あいぱれっと」で行われている活動 ・「あいぱれっと」の開設にかかった費用 学習問題Ⅰ 「あいぱれっと」は、なぜつけられたのだろうか。	【思・判・表①】 「あいぱれっと」利用者数や年齢層、「あいぱれっと」で行われている活動などに着目して、学習問題を考えている。 〈発言・ノート〉	・利用者数と年齢層のグラフ ・フロアマップ ・YouTube 動画「のびのび育て！あいぱれっと」

事例のポイント①
 学習問題Ⅰは、国や市の政治が国民主権の考え方の下、市民生活の安定と向上を図る大切な働きをしているという社会的事象の意味を捉える学習問題である。

つかむ	<p>事例のポイント③</p> <p>自らの学習を調整するための振り返りとして、</p> <p>①どのように学ぶか（見通し）</p> <p>②どのように学んだか（学び方）</p> <p>③学んだことをどう生かせそうか（関連・発展）</p> <p>の3点を小単元の中に意図的に位置付けて振り返る。情報共有ツールに入力することで集計や共有の効率化を図る。</p>	<p>【態①】</p> <p>国や市の政治の働きについて、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を解決しようとしている。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	
調べ	<p>②③ゲストティーチャー（以下、GT）から話を聞き、「あいぱれっと」利用者の願いやそれに対する取組、国や市の子育て支援政策などを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいぱれっと」利用者の願い ・「あいぱれっと」がさいたま市の子育ての悩みなどを“ワンストップ”で解決するためにつくられたこと ・SDGsの17の目標 ・「あいぱれっと」の各活動とSDGsとの関連を考えること ・国の子育て支援政策 ・市の子育て支援政策 ・国や市がSDGsの視点を取り入れて政策を行っていること ・国や市の政治が市民に果たす役割 	<p>【知・技②】</p> <p>「あいぱれっと」利用者の願いやつくられた経緯などについて、取材による調査で調べ、表や文などにまとめ、国や市の政治が市民生活をよりよくしていること理解している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GT（市役所の方） ・YouTube動画「SDGsって何だろう」
まとめ	<p>④調べてきたことを「ストーリーシート」に整理し、学級全体で話し合い、学習問題の結論を導き出す。（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで調べてきたこと 	<p>【態①】</p> <p>国や市の政治の働きについて振り返り、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>〈発言・ストーリーシート〉</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>国や市の政治の取組と市民生活を関連付けて市の政治の働きを考え、表現している。</p> <p>〈発言・ストーリーシート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーシート
	<p>学習問題Ⅰの結論</p> <p>「あいぱれっと」がつくられたのは、市民が子育ての悩みを抱えているのに施設がばらばらで利用しづらかったので、その悩みをワンストップで解決するため。このようにさいたま市の政治は、市民が住み続けられるまちをつくる役割を果たしている。</p>		
つかむ	<p>⑤「あいぱれっと」ができるまでの期間や費用などから、「あいぱれっと」建設・運営に関する政治の仕組みについて問いを見だし、学習問題Ⅱを立てる。</p>	<p>【思・判・表①】</p> <p>「あいぱれっと」ができるまでの期間や費用などに着目して、学習問題を考えている。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいぱれっと」ができるまでの期間や費用
	<p>事例のポイント①</p> <p>学習問題Ⅱは、国や市の政治の取組という社会的事象の仕組みを捉える学習問題である。1サイクル目に意味、2サイクル目に仕組みという順で学習過程を組むことで、「あいぱれっと」という教材を身近に捉えて学習を進めることができるようにしている。</p>		

事例のポイント②

GTの話にSDGsとの関連を含むことで、国や市の政策、「あいぱれっと」の各活動とSDGs目標4・8・11との関連を考えることができるようにする。

編 P49 指導計画作成の留意事項(4)

編 P49 指導計画作成の留意事項(2)

編 P49 指導計画作成の留意事項(2)

つ か む	学習問題Ⅱ 「あいぱれっと」は、どのようにしてつくられたのだろうか。	【態①】 国や市の政治の働きについて、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を解決しようとしている。〈発言・ノート〉	
調 べ る	⑥「あいぱれっと」の建設・運営について、法令に基づいて市役所が計画を立て市議会が議決するまでの過程について調べ、フローチャートに整理する。 ・法律、条例、計画 ・「あいぱれっと」建設・運営の計画案 ・市議会での話し合い、議決 ・「あいぱれっと」建設、運営の事業者の選定	【知・技①】 政策の内容や計画から議決までの過程、法令や予算との関わりなどについて、各種の資料で調べ、表や文などにまとめ、国や市の政治の仕組みを理解している。 〈発言・ノート〉	・法律 ・条例 ・計画 ・「あいぱれっと」完成フローチャート
ま と め る	⑦「あいぱれっと」の建設・運営について、市議会が議決して市役所が事業を実施するまでの過程について調べ、前時のフローチャートに書き加える。 ・市役所の働き（計画案や予算案を市議会に提出し、実行に移す） ・市議会の働き（条例の制定や改定、各事業とその予算などを議決する） ・市議会議員選挙 ・市議会議員や市役所管理職級職員の男女割合 ・国や県との関わり ・税金の働き	【知・技①】 政策の議決から実施までの過程などについて、各種の資料で調べ、表や文などにまとめ、市の政治の仕組みを理解している。 〈発言・ノート〉	・市議会議事録 ・「あいぱれっと」完成フローチャート
ま と め る	⑧前時まで整理したフローチャートを基に学級全体で話し合い、学習問題の結論を導き出す。 ・これまで調べてきたことや前時まで整理したフローチャートを基に、学級全体で話し合うこと ・学習問題の結論を導き出すこと	【思・判・表②】 市の政治の取組と市民生活を関連付けて市の政治の働きを考え、表現している。 〈発言・ノート〉 【態②】 市の政治の働きについて振り返り、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 〈発言・ノート〉	・「あいぱれっと」完成フローチャート
	編 P49 指導計画作成の留意事項(2) 学習問題Ⅱの結論 「あいぱれっと」の建設は、市役所が法律に基づいて計画を立て、市議会で議決され、国や県の支援を受けながら税金が使われることで実現した。また、運営は、市役所から選ばれた事業者が行っている。		

5 本時の学習指導（4／8時間）

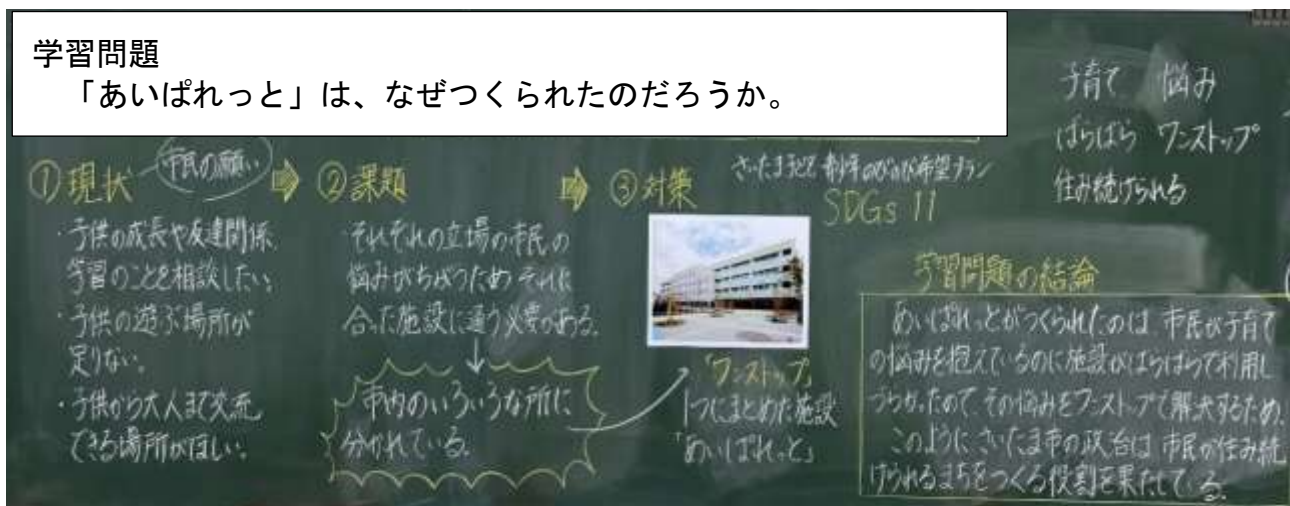
(1) 目標

- ・国や市の政治の働きについて振り返り、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。
〈学びに向かう力、人間性等〉
- ・国や市の政治の取組と市民生活を関連付けて国や市の政治の働きを考え、表現することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

主な学習活動・学習内容	・指導上の留意点 評価〈方法〉	資料等	時間
1 これまでの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。 ・これまでの学習を振り返り、本時の課題をつかむこと	・第1時で提示したグラフを基に、これまでの学習を振り返ることができるようにする。	・利用者数と年齢層のグラフ	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習問題 I 「あいぱれっと」は、なぜつくられたのだろうか。 </div>			
2 GTの話「ストーリーシート」に整理し、気付いたことを話し合う。 ・さいたま市民の子育て支援のニーズが高まっていたこと ・子育て支援施設が市内に点在していて子育ての悩みを円滑に解決するのが難しいという課題があったこと ・子育て支援の総合的な機能をもった施設（「あいぱれっと」）をつくることで子育ての悩みを“ワンストップ”で解決できるようにしたこと ・さいたま市の目指すまちづくりがSDGsと関連していること	・「あいぱれっと」がつくられることになった経緯を時系列に整理することで、「あいぱれっと」の必要性を捉えられるようにする。 ・「あいぱれっと」に関する市のまちづくりの方針とSDGsとの関連を整理することで、市が持続可能なまちづくりをしていることを捉えられるようにする。	・GTの話の概要 ・ストーリーシート	27
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評 国や市の政治の働きについて振り返り、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 【態①】〈発言・ノート〉 ⇒ 適切に振り返ることができていない児童には、現状・課題・対策というキーワードを基に考えるよう支援する。 </div>			
3 これまで調べてきたことを基に学級全体で話し合い、学習問題の結論を導き出す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評 国や市の政治の取組と市民生活を関連付けて国や市の政治の働きを考え、表現している。 【思・判・表②】〈発言・ノート〉 ⇒ 適切に関連付けることができていない児童には、市民の悩みと「あいぱれっと」の機能に着目するよう支援する。 </div>		10
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習問題 I の結論 「あいぱれっと」がつくられたのは、市民が子育ての悩みを抱えているのに施設がばらばらで利用しづらかったので、その悩みをワンストップで解決するため。 このようにさいたま市の政治は、市民が住み続けられるまちをつくる役割を果たしている。 </div>			
4 本時の学習を振り返る。 ・自分の学びを振り返ること	・「学んだことをどう生かせそうか」の視点を振り返ることで、今後の学習に関連させることができるようにする。		3

6 板書の写真



7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

ア ①2サイクルでの学習過程を通じて、学ぶ必要性を感じることができるようにする。

本事例では、本小単元の学習内容を整理して「なぜ国や市の政策が実現されるのか」という意味と「どのように国や市の政策が実現されているのか」という社会的事象の仕組みに分類し、それぞれを1サイクル（つかむ・調べる・まとめる）の問題解決的な学習過程で追究させることで、児童が主体的に問題を解決し、知識を深く理解することができるようにした。その上で、1サイクル目に社会的事象の意味、2サイクル目に社会的事象の仕組みを学ぶように学習過程を工夫した。

これは、2サイクルで学ぶことで、学ぶ必要性を感じて学習に取り組むことがSDGsとの関連を見いだすことにつながると考えたためである。

実際の授業では、「あいぱれっと」の存在意義自体が社会的事象の意味に関連するものであることから、児童はそれを1サイクル目に学ぶことで市民にとっての政治の必要性を感じ、2サイクル目に進むことができた。

2サイクルの学習過程を通じて、学習問題を明確に捉えて学習を進める児童の姿が見られた。

【社会科における問題解決的な学習の学習過程（1サイクル）】
※社会的事象の仕組みと意味を明確に区別せずに学習する



社会的事象の仕組みと意味

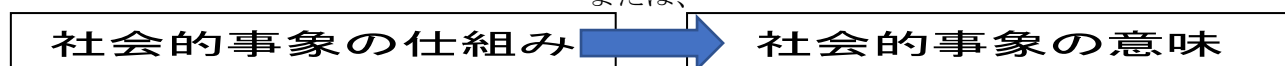
【社会科における問題解決的な学習の学習過程（2サイクル）】
※社会的事象の仕組みと意味を区別して学習する



<本事例では>



または、



イ ②社会的事象の意味と SDGs を関連させ、学習に対する価値を高め学習意欲を引き出す。

本事例では、政治の働きと SDGs との関連を図っている。例えば、目標 11「住み続けられるまちづくりを」である。さらには、「あいぱれっと」の具体的な活動を調べることで、目標 4「質の高い教育をみんなに」や目標 8「働きがいも経済成長も」など複数の目標に関連していることを考えさせた。

これは児童に、社会的事象の意味を SDGs と関連付けて捉えさせることが、学習に対する価値を高めるようになると考えたためである。

実際の授業では、国や市の方針に SDGs の視点を取り入れられていることを捉えさせることで、政策が一つの取組で多面的な効果を得られるように考えられていることに気付く姿が見られた。

なお、G Tとの事前の打合せにおいて、学習のねらいを丁寧に共有した上で、SDGs との関連について触れて欲しい旨を伝えた。G Tの話の内容は、読み原稿に近い形でおおよそ文章化したものを用意し、G Tと話し合いながら修正していった。ただし、読み原稿をそのまま読むのではなく、読み原稿の内容に沿いながらもあくまでG Tなりの言葉で話すように依頼した。

ウ ③ICT端末のデータ共有機能を活用し、学びの充実化・効率化を図る。

本事例では、毎時間の振り返りの場面において、振り返りを情報共有ツールに入力させることで、振り返りの内容を共有しやすくしたり集計しやすくしたりした。また、話し合いの場面において、情報共有ツールでノートなどの写真を投稿させることで、互いの考えを共有しやすくした。

これは、ICT端末の活用を通して、学びの充実化や効率化を図ることで「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を図ろうと考えたためである。

実際の授業では、毎時間の振り返りの場面において、振り返る視点を意図的に定めた。例えば、「つかむ」過程の第①時では、「どのように学ぶか」の視点を定めることで、学級で立てた予想や学習計画を基に具体的に見通しを記述する姿が見られた。「調べる」過程の第⑥時では、「どのように学んだか」の視点を定めることで、調べる際に着目した点やまとめ方などが学習問題の解決に対して適切だったかを振り返って記述する姿が見られた。「まとめる」過程の第⑧時では、「学んだことをどう生かせそうか」の視点を定めることで、学習と生活との関連を記述する姿が見られた。

情報共有ツールに入力された記述を即時に公開することで、他者の考えとの比較が容易になり、毎時間の振り返りの視点や分量が増えたり、内容が具体的になったりする姿が見られた。

【第①時、第⑥時、第⑧時の振り返り記述例】

① どのように学ぶか	あいぱれっとが必要な理由は、それを求める人がいるからだと思う。 でも、あいぱれっとがつけられる前はどうしていたのか。 あいぱれっとのよさは何かを調べる必要がある。
⑥ どのように学んだか	フローチャートには、あいぱれっとがつけられるまでのことを順番に書いていくと分かりやすくなりそうです。 その他にも関係のあることは線や矢印でつなげばよさそうです。
⑧ 学んだことをどう生かせそうか	市民の意見を市に伝えることで、自分たちの生活がよくなっていくんだなと思った。 これからは、市内に施設がつけられたニュースがあったら、なぜつけられたのかも知りたいと思った。

(2) 実践に当たっての留意点

本実践を通して、学習のねらいに迫っていく中で、児童のSDGsに対する捉え方が変容していった。SDGsを前提として国や市の政治が行われているという捉え方から、国や市の政治が目指していることを整理したものがSDGsであるという捉え方への変容である。この変容により、政治が市民の生活の向上を図る大切な働きをしているという概念をより深く理解させることにつながったと考える。

【参考：SDGsで掲げられているの17の目標】

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(出典：国際連合広報センター「SDGsのポスター・ロゴ・アイコンおよびガイドライン」から
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/)